

後援会だより

第24号

2017年9月28日発行

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

○ごあいさつ	
後援会会長	1
法文学部長（後援会顧問）	2
○ゼミ紹介	
法社会学ゼミナール	2

○平成29年度後援会総会（第15回）	3
○就職状況	4
○平成28年度決算・平成29年度予算	6
○平成29年度後援会役員一覧	6

後援会会長ごあいさつ

法文学部後援会会長 堂路 温幸



会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動につきましてご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

この度、新しく後援会会長に就くこととなりました堂路と申します。微力ではございますが、後援会の役員、事務局の皆様方とともに、学生の皆様が充実した大学生活を送ることができるよう努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、去る7月8日、多数の会員の皆様にご参加いただき、今年度の後援会総会を無事終えることができました。

総会では、年間の実績報告、活動計画や予算・決算にかかる議事についてご審議いただきました。後援会は、学生の勉強や福祉に寄与すること及び大学と会員の相互の親睦と大学の発展に貢献することなどを目的に組織されておりますが、今年度におきましても学生の皆様がより充実したキャンパスライフを過ごせるよう様々な事業を行うこととしており、その支援活動にお預かりしました大切な後援会費を有意義に活用してまいります。

当日は、このほか学生の皆様による活動報告もいただき、学生の皆様の前向きな取り組みとこれを支える後援会の大切な意義を知る良い機会となりました。

た。小・中・高等学校までとは違い、教育活動における学校や子どもたちとの接点が少なくなる私ども保護者にとりましては、大変貴重な時間でございました。

また、総会後に学内で開催された懇談会では、普段なかなかお会いする機会のない教職員の皆様や保護者の方々と交流することができ、これもまた大学を身近に感じ取れる有意義な時間となりました。

会員の皆様におかれましては、大変ご多忙な日々をお過ごしのこととお察しいたしますが、総会、懇談会ではこのように有意義な時間を持つことができますので、鹿児島県外など遠方にお住まいの方々を含め、子どもたちが貴重な時間を過ごす大学生活を肌で感じ取れる機会としていただきますためにも、来年度は、さらに多くの方々にご参加いただけたらと思うところであります。

学生の皆様は、鹿児島大学を卒業いたしますと、いよいよ自立し、社会に貢献していく生活を始めることになります。これまでの成長に応じた「学び」の総仕上げとなる大学生活は、学生の皆様にとって意義ある時間、貴重な財産になることと思います。

そのためにも、後援会では、教職員の皆様をはじめとする大学の関係者の方々と力を合わせ、学生の皆様が魅力あるキャンパスライフを送ることができるよう学習・研究活動や就職活動、福利厚生事業等への支援を引き続き行ってまいりたいと考えておりますので、今後とも、後援会活動への皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

また、後援会に関するご意見、ご要望がございましたら、お気軽にお届けいただきますよう併せてお願い申し上げます。

法文学部長ごあいさつ

法文学部長（後援会顧問） 高津 孝

前期の学期末試験が終了すると、大学生は夏休みに入りますが、大学ではオープンキャンパスの時期になります。オープンキャンパスとは、高校生に大学を知ってもらい、将来受験してもらうための広報活動ですが、今年は、台風のため、例年より二週間遅れ、お盆後の開催になりました。既に鹿児島大学に入学された学生の皆さん及び保護者の方々にはもう必要ないものになりますが、実は参加する教員には楽しみなことがあります。それは、法文学部の現役の学生が、将来、鹿児島大学を受験する高校生に対して法文学部をアピールしてくれるのを聞くことができるからです。今年は、法経社会学科、人文学科から一人ずつ選ばれた学生さん（男女一人ずつ）からアピールがありました。わずか3分の持ち時間ですが、パワーポイントを作成して、画面に文字や写真、イラストなどを映し出しながら、簡潔に鹿児島大学での学生生活を紹介してくれました。個人のエピソードを交え、学生の視点からという点がポイントです。先生方による大学紹介と違って、高校生にも親近感が湧くのか、ここが一番会場の雰囲気が和むところでした。教員は普段大学生と接する時間も長いのですが、意外に大学生活についての生の声を聞くことは少ないように思います。改めて話すことでもないという感覚でしょうか。二人の報告者は選ばれた学生ですが、300名の高校生に向かってアピールすること自体大変なことで、大学生となつてからの成長をそこに見ることができます。大学生になると一気に経験の幅が広がります。大学での授業、ゼミ活動のほか、アルバイトや学外でのボランティア活動、海外語学研修、友人との出会いなど、様々な経験が蓄積されて大人になっていく過程を彼らのアピールから感じ取れます。しかし、必ずしも単なる成功体験の披露というわけではありません。失敗を語ってくれる場合や実は鹿児島大学は第一希望ではなかったという告白を聞かされることもあります。見えないところで学生は成長していきます。我々は条件を整え彼らの成長を後押しするだけだと強く感じる機会でした。



ゼミ紹介 ～法社会学ゼミナール～

法経社会学科教授 米田 憲市

「法社会学ゼミナール」は、法政策学科（法学コース）で開講されている演習の一つとして現在3年生10名が履修しています。

ゼミのタイトルの「法社会学」は、研究テーマも幅広く、用いる研究手法も多様であり、「法」の名のつく研究分野の中で最も「自由」で、（手前味噌ながら）かなり刺激的で最も面白い学問です。

ゼミの教育プログラムでは、インターネットを利用した学修支援システムを活用しており、ゼミでの活動の情報や資料などをすべて集約して、効率的な指導に役立てています。そして、①2年次で「研究」という作業の手習い、②3年次でチームの下で決めたテーマの研究に取り組み、個々人の学究的な能力を高めることと組織としての成果を上げるリーダーシップを涵養すること、③4年次で3年次までに高めてきた問題意識と研究能力によって個々の課題研究（卒業研究）をまとめるという計画で指導しています。



現在二つの班に分けて研究を進めており、ひとつは「動物の殺処分の研究」、もう一つは「裁判へのハードル」をテーマとしています。

「動物の殺処分の研究」は、引き取り手のない野良犬・野良猫を殺して処分することについて、現在の制度の具体的な手続や、生成から維持、展開のメカニズムとそれを取り巻く社会システムを把握しようとしています。

「裁判へのハードル」というテーマは、法社会学の古典的なテーマである「日本人の裁判嫌い」という仮説と、それを変革しようとした司法制度改革の取組の成果からヒントを得て設定されたものです。これまでより現場や制度に踏み込んだ調査・分析を行い、人々が直面したもめごとが、訴訟になるまでのプロセスに現れるまでの事情を明らか

にしようとしています。

これらの研究テーマは学生が決めたものですが、なかなかの難問です。しかし、完成レベルをより高いものに設定し、学生たちが胸の内にもつ「基準」が自然と高いものとなるよう促しています。この経験を機に、どのような問題に直面しても、自分だけではなく周囲も納得する質の高い成果を常に生み出す力のある人材になってほしいと思って指導しています。

ゼミ生たちも、答えのない「研究」という作業に戸惑い迷走しつつ、毎回なかなかの水準で作業経過を報告してくれています。彼らのポテンシャルに励まされつつ、自らも研究力と指導技術を高め、学生たちにより充実した経験を提供したいと思っています。

平成29年度後援会総会(第15回)

平成29年7月8日(土)に第15回法文学部後援会総会が開催され、保護者・教職員等あわせて83名が出席しました。総会では、高津法文学部長による挨拶の後、①会長の選出、②役員の選出、③平成28年度事業報告(案)、④平成28年度決算案および監査報告、⑤平成29年度事業計画(案)、⑥平成29年度予算(案)について審議が行われ、原案通り承認されました。

次に報告事項として、金丸常任理事から平成29年度法文学部後援会への入会状況が説明された後、尾崎就職委員長から昨年度の就職状況について報告が行われました。

続いて、後援会が行う教育研究活動への支援事業に関する理解を保護者の方々に深めていただくために、支援を受けた学生たちが活動体験報告を行いました。今年度は、経済情報学科ゼミ代表者会議執行部3名による「ゼミ代表者会議の活動について」の報告と、臨床心理科学研究科学生2名による「『どんぐりの会』における動作法研修報告」が行われました。総会の最後には、臨床心理科学研究科の概略について中原研究科長から紹介がありました。

総会終了後に開催された懇談会には、保護者・教職員あわせて64名の参加がありました。大学生生活や教育内容、就職状況等について活発な情報交

換が行われ、盛況のうちに平成29年度の総会を終えることができました。



今年3月に卒業した平成28年度卒業生の就職率は、前年度比2ポイント減の93.3%でしたが、平成25年度以降は90%以上の高い水準を維持しており、高止まりの傾向にあるといえます（表1）。

また民間企業・公務員の比率は、民間74.8%、公務員25.2%となりました（表2）。前年度と比較して公務員が2ポイント増加していますが、全般として例年の傾向を維持しています。また民間の就職先は前年度と同様、金融業への就職者が最多で、以下小売業、情報通信業、卸売業と、こちらも例年通りの傾向となっています（表4）。

就職地域別では鹿児島県内が48.7%、鹿児島県を除く九州が29.2%で全体の約8割を占め、多くの学生が出身地に近い地域で就職している状況がうかがえます（表3）。ちなみに、平成28年度卒業生の大多数を占める平成25年度入学者のデータでは、鹿児島出身者が56.0%、鹿児島県を除く九州出身者が39.4%を占めていますので、若干の流出傾向があることは否定できません。なお、九州以外の就職地域として関東が18.2%を占め、それ以外の地域への就職者はきわめて少なくなっています。

本年度も、全体として就職状況は良いと言えます。ただし、卒業者総数の5.2%が「公務員・教員採用試験等受験希望」を理由として、少なくとも卒業直後の段階では就職していません。また大学卒業生の就職3年以内の離職率は平成25年度卒業生で31.9%（全国、厚生労働省調べ）に達し、さらに鹿児島県内では例年全国平均を上回る値が報告されています（鹿児島労働局調べ）。公務員志望による非就業にせよ、早期離職にせよ、背景としてミスマッチングが存在することは想像に難くありません。

学生諸君には、大学での勉強や研究、学生生活を通して自分のキャリア形成についてじっくり考えてほしいと願っています。その上で就職委員会は、今後とも後援会のご支援を賜りながら、就職活動支援や就職ガイダンスの開催など、全学の就職支援センターと連携して学生のサポートに当たりたいと考えています。

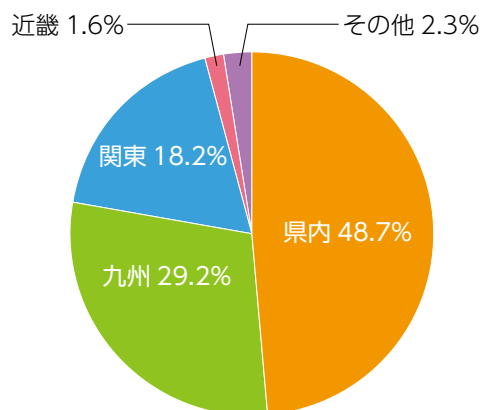
1. 平成28年度卒業者の就職率

学 科	法 政 策 学 科	経 済 情 報 学 科	人 文 学 科	合 計
就職希望者数	78人	130人	133人	341人
就 職 者 数	75人	124人	119人	318人
就 職 率	96.2%	95.4%	89.5%	93.3%

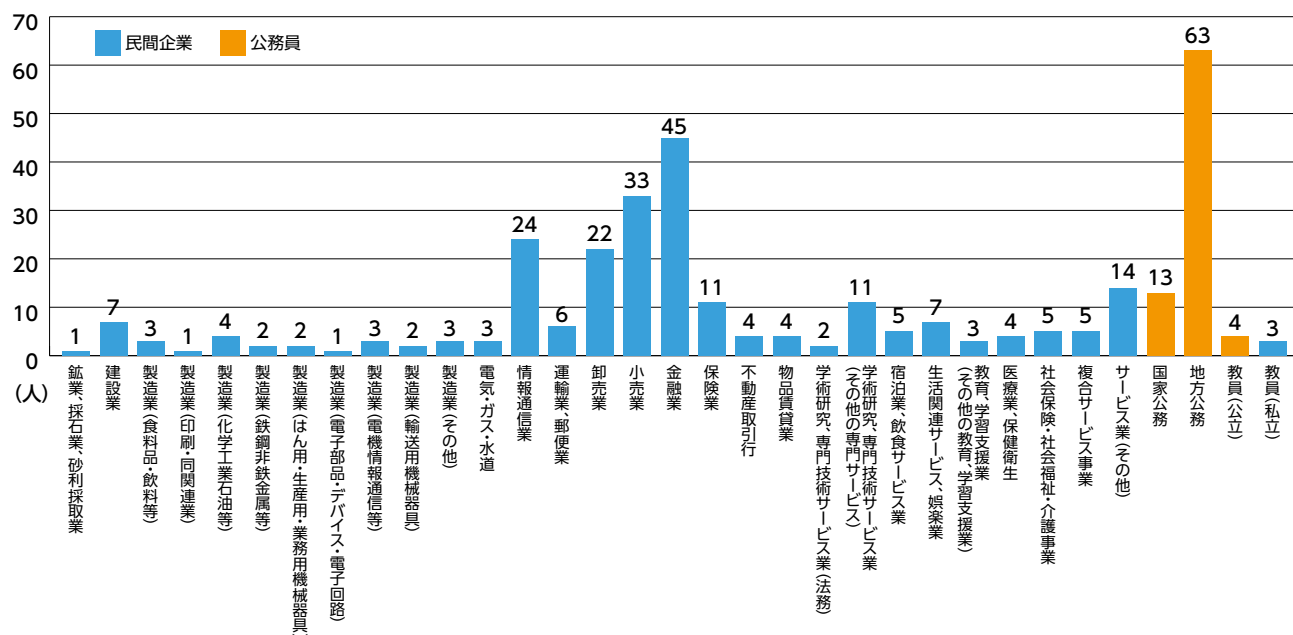
2. 平成28年度卒業者の公民別就職状況

学 科	法 政 策 学 科		経 済 情 報 学 科		人 文 学 科		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
公務員・教員	23人	16人	10人	12人	7人	12人	40人	40人
民 間 企 業	17人	19人	51人	51人	19人	81人	87人	151人
合 計	75人		124人		119人		318人	

3. 平成28年度卒業者の地域別就職状況



4. 平成28年度就職者数(318人)の産業種別内訳



平成 28 年度決算・平成 29 年度予算

【平成 28 年度決算】

1. 収入の部

平成28年4月1日～平成29年3月31日（単位：円）

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減額 (B-A)	摘 要
①会 費 (正 会 員)	6,000,000	3,950,000	△ 2,050,000	保護者会員
②会 費 (特別会員)	608,000	520,000	△ 88,000	教職員会員
③賛助会費 (賛助会員)	30,000	0	△ 30,000	同窓会員
④雑 収 入	205,591	197,231	△ 8,360	後援会総会・理事会の懇談会会費 (参加者から徴収)、預金利息等
小計 (①+②+③+④)	6,843,591	4,667,231	△ 2,176,360	
⑤前年度繰越額	15,506,436	15,506,436		
合 計	22,350,027	20,173,667	△ 2,176,360	

2. 支出の部

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減額 (B-A)	支 出 内 訳
①事業費	5,695,332	4,291,582	△ 1,403,750	就職支援室運営、就職支援、教育研究活動支援、福利厚生支援、教育環境整備支援
②会議費	300,000	312,580	12,580	懇談会経費 (参加者から会費を徴収して支出)、後援会総会のお茶ペットボトル代等
③事務運営費	1,200,000	1,159,036	△ 40,964	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
④予備費	200,000	45,800	△ 154,200	
小計 (①+②+③+④)	7,395,332	5,808,998	△ 1,586,334	
⑤次年度繰越額	14,954,695	14,364,669	△ 590,026	平成29年3月31日現在の預金残高
返還準備額	14,700,000	12,180,000		
加不足額 (次年度繰越額－返還準備額)	254,695	2,184,669		
合 計	22,350,027	20,173,667	△ 2,176,360	

【平成 29 年度予算】

平成29年4月1日～平成30年3月31日（単位：円）

		29年度予算額 (A)	28年度予算額 (B)	前年度差額 (A-B)	摘 要
収 入 項 目	①正会員会費 (a+b-c)	5,455,000	6,000,000	△545,000	保護者会員
	a 前年度返還準備額	12,180,000			前年度決算の返還準備額と一致 (27年度に振込済28年度入学生の会費を含む)
	b 本年度振込額 (※1)	4,775,000			本年度新入会員数×20,000円 (大学院生は10,000円 or 15,000円)
	c 本年度返還準備額 (※2)	11,500,000			本年度解散があった場合にも問題のない最低準備額
	②特別会員会費	520,000	608,000	△88,000	教職員会員
	③賛助会員会費	0	30,000	△30,000	同窓会員
	④雑収入	200,000	205,591	△5,591	後援会総会・理事会の懇談会会費 (参加者から徴収)、預金利息
	⑤前年度執行残余	2,184,669		2,184,669	前年度決算の執行残余金額と一致
(1)本年度執行可能額合計 (①+②+③+④+⑤)	8,359,669	6,843,591	1,516,078	本年度支出しても次年度以降の突発的な返還に支障の出ない金額	
支 出 項 目	⑥事業費	5,758,692	5,695,332	63,360	就職支援室運営、就職支援、教育研究活動支援、福利厚生支援、教育環境整備支援
	⑦会議費	300,000	300,000	0	懇談会経費 (参加者から徴収)、後援会総会のお茶ペットボトル代等
	⑧事務運営費	1,258,000	1,200,000	58,000	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	⑨予備費	200,000	200,000	0	
	(2)合計 (⑥+⑦+⑧+⑨)	7,516,692	7,395,332	121,360	本年度執行予定金額
	(3)本年度執行残余(1)－(2)	842,977	△551,741		期末予定執行残余
	次年度繰越額 (C + (3))	12,342,977	14,954,695	△2,611,718	期末通帳残高と一致するべき金額

※1 予算資料作成時点での既知の数値を活用。期中に加入があった学生の会費については前年度執行残余の活用によって調整する。

※2 返還準備額とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

平成 29 年度後援会役員一覧

会 長：堂路温幸	副 会 長：田中孝子	理 事〔教 員〕：
顧 問：高津 孝	常任理事：金丸 哲	(法経社会学科) 米田憲市、農中 至
理 事〔保護者・社会人学生(本人)〕：		(人文学科) 横山春彦、兼城糸絵
(経済情報学科) 堂路温幸		(臨床心理学研究科) 宇都宮敦浩
(法経社会学科) 南 芳浩		監 査：野間尚宣、澤田成章
(人文学科) 末吉 公子、竹内喜恵		監 事：西 信博
(人文社会科学研究科) 寿 洋一郎		
(臨床心理学研究科) 田中孝子		

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話099-285-7510 (7602) FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp 後援会ホームページ <http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/>